

技術・家庭科シラバス 中学1年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 技術・家庭科	2 単位	第 1 学年	・新しい技術・家庭 技術分野（東京書籍） ・新しい技術・家庭 家庭分野（東京書籍） ・30 時間でマスターOffice2019（実教出版）
学習の到達目標	技術分野では、ものづくりやコンピュータ活用に関する基礎的な知識と技術を身につけ、技術の果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を養う。 家庭分野では、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育てる。		
評価の観点	多様な価値観を尊重し、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身につける。＜主体性・多様性・協働性＞ 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践する力を身につけた上で、新しいアイデアを生み出し未来を切り開いていこうとしている。＜思考力・判断力・表現力＞ 身近な環境や、事象に興味関心を持ち、多様な価値観を学び、得られた知識を理解しているとともに、それらに関わる技能を身につけている。＜知識・技能＞		

2. 学習計画及び評価方法等

①技術分野

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4 月	生活や社会を支える情報の技術	○情報セキュリティの重要性と危険を防ぐための技術を知る。 ○基本的な情報セキュリティ対策をまとめる。 ○情報モラルの必要性和情報を収集・発信するときに注意することを知る。 ○情報社会で人権などの権利を尊重する必要性を考える。 ○知的財産を保護する必要性と利用方法を知る。 ○知的財産の望ましい活用を考える。 ○コンピュータシステムの構成とソフトウェアの働きを	・情報セキュリティに関わる基礎的な仕組みを説明できる。 ・情報モラルの必要性和情報を発信する時の注意点について説明できる。
5 月			・知的財産を保護する必要性と利用方法を説明できる。 ・情報の技術が生活や社会で果たしている役割をまとめ

6月	Word の特徴と使い方	知る。 ○情報の表現手段やコンテンツの特徴を知る。	る。 ・Word の使いやすさやわかりやすさに関する工夫を理解し、利用するための基本的なスキルを習得する。
9月 10月 11月	PowerPoint の特徴と使い方 Excel の特徴と使い方	○情報の表現手段やコンテンツの特徴を知る。 ○表計算ソフトの特徴と利用方法を知る。	・PowerPoint の使いやすさやわかりやすさに関する工夫を理解し、利用するための基本的なスキルを習得する。 ・Excel の使いやすさやわかりやすさに関する工夫を理解し、利用するための基本的なスキルを習得する。
1月 2月	計測・制御のプログラミングによる問題解決 社会の発展と情報の技術	○計測・制御システムの基本的なしくみと各要素のはたらきを知る。 ○完成したコンテンツを発表し、設定した評価項目に沿って相互評価する。 ○社会で利用されているコンテンツと比較などし、目的が達成できなかった原因や、さらに改善できる点をまとめる。 ○情報の技術の評価し、適切な選択と管理・運用のあり方や、新たな発想に基づく改良と応用について考える。	・安全・適切なプログラムの制作、動作の確認等ができる。 ・学習を振り返り、技術の見方や考え方について考える。

②家庭分野

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4月 5月 6月	衣服の選択と手入れ 生活を豊かにするために 作って楽しい布作品 エプロンの製作	・衣服の役割がわかる。 ・自分らしい着方や、和服の文化に関心を持つ。 ・自分の衣服計画が立てられる。 ・被服製作の基礎・基本の知識を確認し、作品製作の計画を立てる。 ・スウェーデン刺繍の由来と方法を学ぶ。 ・ミシンとアイロン等の道具を正しく使うことができる。 ・布地の裁断、しつけの仕方を習得する。	・平面構成と立体構成の違いがわかる。 ・既制服を選ぶポイントがわかる。 ・被服製作の基礎的な技能を習得する。 ・三原組織を理解し、待ち針やしつけが正しくできる。

9 月 10 月 11 月	エプロンの製作	・糸の始末・仕上げアイロンができています。 ・製作手順を理解し、正しく作業できる。 ・刺繍の技能を身につける。	・道具の使い方を習得する。 ・刺繍の方法を学び、実践できる。
1 月 2 月	衣服の手入れ① 衣服の手入れ② 持続可能な衣生活	・衣服の状態に応じた手入れの必要がわかり、適切な手入れができる。 ・取り扱い表示の意味を理解し、衣服の素材に適した手入れの方法を選択できる。 ・持続可能な衣生活を目指して、課題とその解決方法を目指して、衣生活を工夫できる。	・衣服の材料や状態に応じた手入れが出来る。 ・資源や環境に配慮したい生活をおくるために工夫できることを考える。
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
日本の文化などに対する理解を深め、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。＜主体性・多様性・協働性＞			授業への取り組み(20%)・
生活の中から物事を論理的に捉え、習得した知識や経験をもとに形成した自らの考え・問題意識・価値観を他者にしっかりと伝えられる力を身につけている。＜思考力・判断力・表現力＞			提出課題(20%)
身近な環境や、事象に興味関心を持ち、多様な価値観を学び、理解していると共に、それらに関わる知識と技能を有機的に結びつけ、幅広い視野を持って問題意識を深め、問題解決のために行動を起こせる力を持っている。＜知識・技能＞			定期試験(60%)

【点数化が難しい課題については観点別評価とする】

- A：指定箇所を全てこなし、指示していないところまで自主的に取り組んでいる。
 B：指定箇所をほぼこなし、指示していないところは取り組んでいない。
 C：指定箇所の8割程度しか取り組んでいない。
 D：指定箇所の半分以下しか取り組んでいない。